

第1回水と緑の森づくり会議（H30.5.16） 委員意見概要

【水と緑の森づくりアンケート調査結果及び情報発信業務】

○伊藤委員

- ・水と緑の森づくり事業の認知度を上げて、参加者や協力者を増やしていくために、例えば森林とエコ活動などを一緒に組み合わせるなど森林だけの広報ではなく、既存の取組みや活動と上手くあわせて行っていくと、情報発信の場面が増え、認知度も上がっていくと思う。

○長谷田委員

- ・事業の認知度でいうと、事業の内容は知らないが「みーもくん」は知ってるというように、表面しか知らない感じがある。
- ・ホームページでの広報は、興味がある人が見るというイメージがあり、今後はSNSなどで情報発信していくのも良い方法だと思う。関心のない人に興味を持ってもらえるようアプローチをしてもらいたい。
- ・森林組合で林業専用道というのをつくっているのだから、その道沿いに例えば桜やもみじなどきれいなものを植えて、そういった場所で水と緑の森づくり事業の活動もしつつ、林業の現場を見てもらったりできるようなことができると良い。

○吉川委員

- ・子供たちがみーもスクールなどを体験することは非常に大事である。一般の方にも参加しやすい木工教室などを通じて、色々な体験をどんどん積み重ねていってもらえるような場があると良い。
- ・ここに行けば必ず情報が得られるというような周知もしてもらいたい。

○日笠委員

- ・みーも通信をもう少し大きいものにすると、手に取りやすい。
- ・中学生の技術でもものづくりを行うので、技術室にみーも通信を置くなどしてはどうか。

【意見等】

○川上委員

- ・みーもの森づくり事業では、活動団体がそれぞれ一生懸命に事業提案をされ、非常に心強く感じた。
- ・県税であるので、県下全体まんべんなく取り組まれるよう県でこの事業を進めてほしい。

○山中委員

- ・みーもの森づくり事業では、同じ団体が学習であるとか保全であるとか提案区分は異なるが複数の提案し採択されている。1団体への交付金額の上限があってもいいのではないか。
- ・みーもスクールは一部の限定された学校で実施されていると思うが、子供の頃に五感で体験するという事は非常に大事だと思うので、少しずつ学校数を増やしてもらえると良い。

○荒木委員

- ・木材の利用方法が、ここ2、3年の間でバイオマスや合板など動いている。良い面、悪い面色々あると思うが、木が育ち、育った木が上手く使われるようになっていくと良い。